

2026年8月19日

豊橋技術科学大学長 殿

建築・都市システム学専攻
学位審査委員会
委員長 中澤 祥二



論文審査及び最終試験の結果報告

このことについて、博士学位論文審査を実施し、下記の結果を得ましたので報告いたします。

学位申請者	Mital Chakma		学籍番号	第 215512 号
申請学位	博士（工学）	専攻名	大学院工学研究科博士後期課程 建築・都市システム学 専攻	
博士学位論文名	Empirical Analyses of the Traffic Park Characteristics and Their Impact on Children's Traffic Safety Education (交通公園の特性および子供の交通安全教育への効果に関する実証分析)			
論文審査の期間	2026年7月16日 ～ 2026年8月17日			
公開審査会の日	2026年8月17日	最終試験の実施日	2026年8月17日	
論文審査の結果※	合格	最終試験の結果※	合格	
審査委員会(学位規程第6条) 学位申請者にかかる博士学位論文について、論文審査、公開審査会及び最終試験を行い、別紙論文内容の要旨及び審査結果の要旨のとおり確認したので、学位審査委員会に報告します。 委員長 杉木 直 委員 中澤 博幸 松尾 幸二郎  印 印 印				

※論文審査の結果及び最終試験の結果は「合格」又は「不合格」の評語で記入すること。

論文内容の要旨

本研究は、子供の移動に伴う交通事故リスクの低減を目的とし、交通公園（Traffic Park）の体験型安全教育施設としてのハード的特性、利用頻度が与える交通安全教育効果、および公園職員の指導方針が与える影響を多角的に検証したものである。

第1章では、研究背景として、子供の自立的移動における交通安全上の課題や、交通公園の体験型交通安全教育施設としての位置付けを整理し、研究目的、論文全体の構成を示している。

第2章では、国内外の交通安全教育の既往研究レビューから、体験学習理論に基づく本研究の分析アプローチを示している。

第3章では、国外における交通公園の動向に加え、日本全国の交通公園管理者への包括的なアンケート調査を実施し、各公園内の設備や運営実態、指導方針などを分類している。

第4章では、愛知県豊橋市の4小学校の児童へのアンケート調査により、回帰分析および構造方程式モデル（SEM）を用いて、幼児期からの交通公園の利用経験がもたらす交通安全教育効果を定量的に分析している。

第5章では、指導方針の異なる2つの交通公園の比較分析により、指導方針の違いが交通安全教育効果に与える影響を分析している。

第6章では、以上で明らかにした知見を統合して総合的な考察を行い、本研究の学術的な貢献と研究の限界について述べている。

第7章では、得られた研究成果を総括し、交通公園活用のための具体的な政策提言および今後の研究展望を取り纏めている。

審査結果の要旨

本論文は、子供の移動の安全性向上を目的とし、交通安全教育に資する施設としての「交通公園」という視座のもと、交通公園利用経験や職員の指導方針がもたらす交通安全教育効果を多角的な実証調査から示したものである。その成果は以下の4点において高く評価される。

第一に、これまで全体像が不明であった日本全国の交通公園の運営実態等について管理者へのアンケート調査を実施し、施設設備は類似している一方で、運営体制や職員による指導体制・指導方針に多様性がある実態を明らかにした点。

第二に、これまで交通公園の交通安全教育効果を定量的に明らかにした研究が無いという現状に対し、豊橋市内4小学校の児童に対するアンケート調査から、幼児期からの交通公園利用経験が交通ルールの「認識」を向上するとともに、それを媒介して日常の「安全行動意図」を高めるという交通安全教育効果を、回帰分析および構造方程式モデル（SEM）により統計的・定量的に明らかにした点。

第三に、子供に対する指導方針の異なる2つの交通公園を対象とし、その周辺の小学校児童へのアンケート調査を通じた比較分析から、公園職員の能動的かつ積極的な指導やフィードバック（園内で交通ルールを守っていない子供を注意する等）が、受動的な見守り以上に子供の交通安全教育効果を高める可能性を示した点。

第四に、以上の点を統合し、今後の交通公園の整備において施設（ハード面）のみならず指導方針（ソフト面）を強化することの重要性を示し、子供の自立的移動の安全性向上に向けた効果的な交通公園活用のための具体的な施策を提言した点。

以上のように、本論文は我が国の交通公園に関して、施設設備の実態、多様な運営体制・指導方針の整理、体験的な交通安全教育効果に関する実証、さらには指導方針の重要性にまで踏み込んだ体系的な研究であり、学術的新規性と高い有用性が認められる。よって、博士（工学）の学位に相当するものと判断した。

（各要旨は1ページ以上可）